







大川浩史

### 編集長の爪

中山千六は特殊コース  
外房特別(中山9R)は近10年ぐらいたずと(外枠不利の)中山芝千六。逆に内房S(今開催1週目)は近10年ぐらいたずと(内枠不利の)中山ダート千二。皮肉なレース名で面白い。無駄話はこのままで。中山芝千六が外枠不利なのは、スタートから4コーナーまでずっとカーブなので、外を回っていると距離

神戸新聞杯に春の2冠②着だったエビファネアが出走してきた。キズナは凱旋門賞。衆目一致の菊花賞候補の始動だ。先週のセントライト記念を制したのは、同じシンボリクリスエス産駒で、同じように母の父にスペシャルウィークをもつユールシンギングだった。種牡馬シンボリクリスエス(14歳。父クリスS)は、0203年ともに天皇賞(秋)と有馬記念を制し、2年連続JRA年度代表馬に輝いている。04年から種牡馬となり、今春まで10年間の平均種付け頭数「191頭」を記録している。産駒が4歳に達した09年以降の総合ランキングは①③④③④③位。ダートもOK。ダート限定ランキングも⑤③④④⑤位。期待通り成功している。だが、サクセスプロッケン(フエブラリス)、アルフレッド(朝日杯F.S)、ストロングリターン(安田記念)がG1を制しているが、欲をいえば、自身と同じような中々長距離のビッグレース勝ち馬を送っていないこと。

離損が大きい。4コーナーまでずっとカーブ」というのは枠順の有利・不利だけでなく好走する馬のタイプにも影響があり、「ためれば鋭く伸びる」馬より「ダラダラと脚を使える」馬が好走する。

わがやの血統で、2010年以降、ディープインパクト産駒(121748)に対してダイワメジャー産駒は(1315157)。単勝回収率はダイワメジャー産駒が倍以上。4頭いるディープインパクト産駒は軽視して、ダイワメジャー産駒ダイワストリーム本命。

クラシック勝ち馬にも恵まれず、ここまで賞金獲得額No.1の代表産駒は、サンカルロ(次週のスプリングS予定)。エビファネアの今年の3戦は、みんなハル秒差の敗戦だった。あれだけ期待されたモンテクリスエス(オールカマ)が現在のようになり、まるでサラブレッドのモデルのように見栄えのする産駒が、案外、見かけ倒しだったり、成功種牡馬ゆえに、シンボリクリスエスも悩みをかかえている。神戸新聞杯に3頭、オールカマにも3頭の出走馬がいる。エビファネアだけでなく、ソルロも、サトノアポロ(オールカマ)、サトノアポロ(オールカマ)も、サトノアポロ(オールカマ)も、サトノアポロ(オールカマ)も、物足りないシンボリクリスエスは、この秋、エビファネアとユールシンギングで菊花賞のワン・ツーを決めるぐらいにスパイットをかけた。いま大人気のステイゴールド(19歳)とて、大物を送り始めたのは数年前からのこと。最初はアルコセニョーラ、マイネレーツェルだった。シンボリクリスエスは引退前の03年、天皇賞(秋)も、有馬記念(9馬身差)も、当時のレコードで勝っている。産駒の真価発揮もこれからである。(柏木)

成績欄の各馬の上がり時計で「レースの最速上がり」計測時は太字で表記することにしました。検討の際のご参考に。

### 発見の馬



小木曾大祐

東西の両重賞。春、活躍していた馬が休養から帰って来ました。特に神戸新聞杯は混戦と思われ、菊花賞に向け、大事な一戦。馬券作戦には関係ないのですが、どうしても次を意識してしまいます。神戸新聞杯はティエムイナズマ。瞬発力では劣りますが、長く良い脚が使えるタイプ。血統的にはいかにも菊花賞向き。阪神外回りコースは好材料。勝ち負けの競馬を期待します。

オールカマはメイショウナルトに。過去10年の結果を見ても先行有利な条件。仕掛けてからの反応が速く、直線入り口で早々と勝負をつけてしまっような状態の持ち主。久々組では状態面でも大きなアドバンテージがあり、連勝を決めます。去年の12月のこと、おれの家に遊びにきたコピーライターのコーちゃん(競馬新聞を読んでいた)。「ヒルノドンカルロっていう馬名、なんだかユーモアがあるっていいなあ。単勝を買おう」と言った。じつはおれもヒルノドンカルロという名に、わけもなくユーモアを感じていたのだった。コーちゃんと握手をしてみた。ふたりで2歳未勝利戦のヒルノドンカルロの単を買ったが、15頭立て1番人気で4着。それから私とコーちゃんは、ヒルノドンカルロが出るのを狙っている。

藤本貴久の「囀る」中山9Rストリーミングスター



火曜競馬も馬券は見事な散りっぷり。休みなしに次の日は美浦で仕事。はあく！って感じ。私に癒す時間を「NHKマイルCは終始ゴチャつき消化不良。重賞③着の舞台で100万なら久々も力が違う」

- ◆宝塚記念9着以内馬の成績
- 18年 バランスオブゲーム ③-1着
  - クモババルク ⑧-2着
  - 20年 エアシェイデー ⑦-5着
  - 21年 ドリームジャーニー ①-2着
  - 22年 ドリームジャーニー ④-2着
  - 23年 アーネストリー ①-1着
  - 24年 ナカヤマナイト ⑧-1着
- \*着順は上が宝塚、下がオールカマ

『成績欄にチークPも表記』  
今までのB(ブリック)に加え、レースでのC(チークビーズ)着用も表記します。成績欄の最下段、1着馬名の前に「四角の白抜き文字」でCと表示します。なお、今回のB着用は今まで通りの表記「チークビーズ」に関しては事前の公式発表はありません。

4月に3歳未勝利を勝ち、5月は京都新聞杯10着、メルボルトロフィーを1着。その1着は主戦の藤田でなく四位が乗っています。

「2番手からではマジメに走らないので、ハナへ行くのがいい」と、藤田騎手から聞いていた。2コーナーで物見をしたように競馬がわかっていない面がありながらも、この強さですからね。これからもっと良くなる」というコメントが面白くて、私とコーちゃんはますますヒルノドンカルロびいき。

エビファネアが強いのはおれにもわかるけど、神戸新聞杯は馬単⑩-11点勝負。オールカマも、なんだか大好きなハナズゴールを本命にして穴を狙おう。③-②-③-⑨-③-⑮の馬単3点。